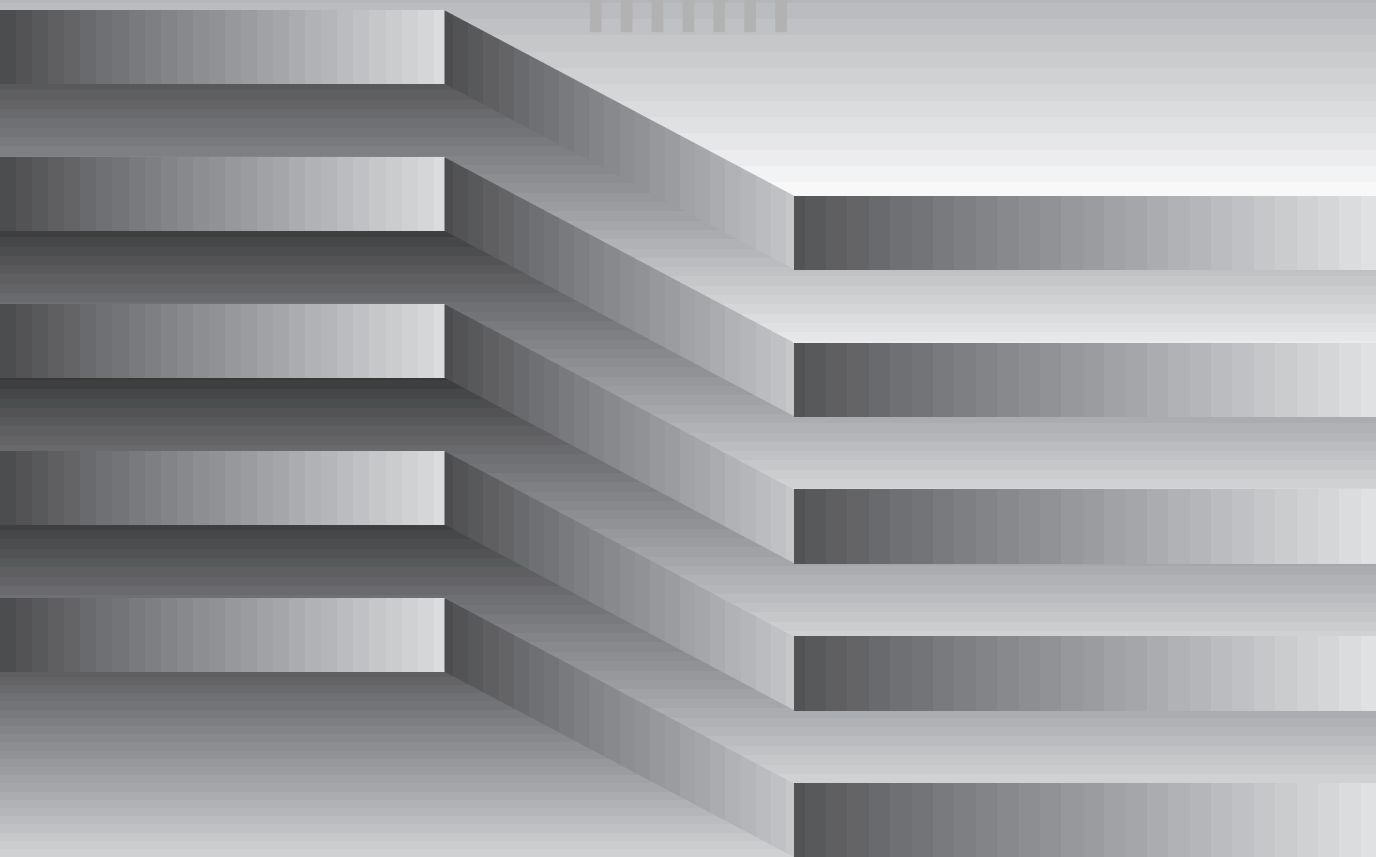
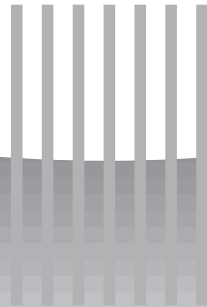




mLAN EXPANSION BOARD

mLAN8E

取扱説明書



# はじめに

このたびはヤマハ mLAN8E をお買い上げいただきましてまことにありがとうございます。  
mLAN8E は、ハイパフォーマンスシリアルバス「IEEE1394」を採用した音楽のためのデジタルネットワーク「mLAN」に対応し、これまでのように複雑な配線を何度もやり直すことなく、オーディオ / MIDI 信号によるネットワークを自由に構築することを目的とした拡張ボードです。ミキサー機能を備えていますので、音楽制作環境を強力にサポートすることができます。mLAN8E の優れた機能を使いこなしていただくために、この取扱説明書をご活用いただきますようお願い申し上げます。また、ご一読いただいた後も不明な点が生じた場合に備えて、大切に保管されますよう重ねてお願い申し上げます。

## mLAN8E の取り付けについて

- ❗ CS6x/CS6R/S80、A5000/A4000 に mLAN8E を取り付けの際は、必ず販売店、または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。誤って取り付けると感電や火災、または故障などの原因になります。

## パッケージの内容

- ・ mLAN8E 本体
- ・ mLAN Tools(CD-ROM)
- ・ IEEE1394 ケーブル(4.5m)
- ・ 26 ピンフラットケーブル (mLAN8E と mLAN8E 対応機器との接続用)
- ・ テ - プ (束線固定用)
- ・ 取扱説明書 (本書)
- ・ mLAN ガイドブック
- ・ mLAN Tools インストールガイド
- ・ 保証書 / 愛用者カード

### 同梱の CD-ROM について

mLAN8E には、mLAN8E を使う際に役立つソフトウェアを納めた CD-ROM が同梱されています。ソフトウェアには、mLAN8E に接続された各電子機器間のオーディオ / MIDI 信号の経路をコンピューター上から設定するための「mLAN Patchbay」や mLAN8E が持つミキサー / エフェクト機能を、コンピューターを使ってコントロールするための「mLAN Mixer」などが含まれています。詳細については別冊の「mLAN Tools インストールガイド」をご参照ください。

不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。また、データが破損したり、失われたりした場合の保証もいたしかねますので、ご了承ください。

この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって実際の仕様と異なる場合があります。

「MIDI」は社団法人音楽電子事業協会 (AMEI) の登録商標です。

この取扱説明書に掲載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

# mLAN8E の特長

## mLAN による高速データ転送

mLAN とは、業界標準規格であるハイパフォーマンス シリアルバス「IEEE1394」を採用した音楽のためのデジタルネットワークです。これまでよりも簡単に、しかもより高機能なシステムを組むことができます。mLAN についての詳細は別冊の「mLAN ガイドブック」をご覧ください。

## 16 チャンネルミキサー機能\*

16 チャンネルのデジタルオーディオミキサーを搭載しています。

## イコライザ - / ダイナミクスプロセッサ - 内蔵\*

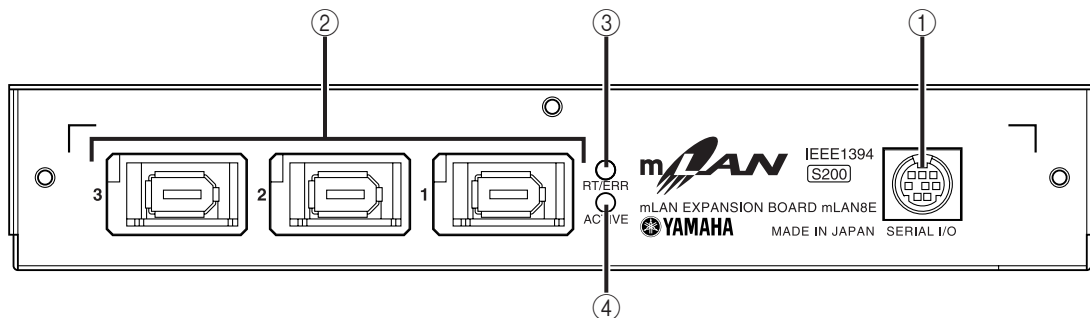
4 バンドイコライザー、ダイナミクスプロセッサにより高度な音質調整を可能にします。

## 目次

はじめに .....	2
mLAN8E の取り付けについて .....	2
パッケージの内容 .....	2
mLAN8E の特長 .....	3
各部の名称と機能 .....	4
接続について .....	5
mLAN8E の内部構成 .....	6
mLAN8E を取り付けた機器での設定 .....	8
A5000/A4000 の場合 .....	8
CS6x/CS6R/S80 の場合 .....	13
LED メッセージ .....	19
仕様 .....	20
ユーザーサポートサービスのご案内 .....	22
保証とアフターサービス .....	23

\* ミキサー / イコライザー / ダイナミクスプロセッサの設定は付属のアプリケーション「mLAN Mixer」を使って行ないます。詳しくは、mLAN Mixer マニュアル (電子マニュアル) をご参照ください。

# 各部の名称と機能



## ① SERIAL I/O(シリアルイン / アウト) 端子

mLAN8E とコンピューターを直接シリアルケーブルで接続する端子です。Windows で mLAN Patchbay や mLAN Mixer を使用する際に、mLAN8E とコンピューターを接続するのに使用します。MIDI/ オ - ディオ信号の入出力には使用しません。接続についてはP.5 をご参照ください。

## ② mLAN(IEEE1394) 端子

mLAN 製品や IEEE1394 対応製品と接続する端子です。IEEE1394 標準ケーブル (6 ピン) で接続します。各端子の左上には LED が装備されています。LED は以下の意味を示します。

緑点灯 : 本体または接続されている機器がリーフノードのとき

消灯 : 未接続

赤点灯 : ケ - ブルを抜いたとき、接続先以外で音が途切れる場合

## ③ RT/ERR LED

LED は以下の意味を示します。

緑点灯 : mLAN8E がルートのとき

橙 (オレンジ) 点灯 : エラ - 発生時 (IEEE1394 パス関連)

赤点灯 : エラ - 発生時 (その他)

消灯 : 上記以外

**(NOTE)** エラ - 発生時の表示については「LED メッセージ (P.19)」をご参照ください。

## ④ ACTIVE LED

LED は以下の意味を示します。

青点灯 : 中継機能が働いているとき

消灯 : 中継機能が働いていないとき

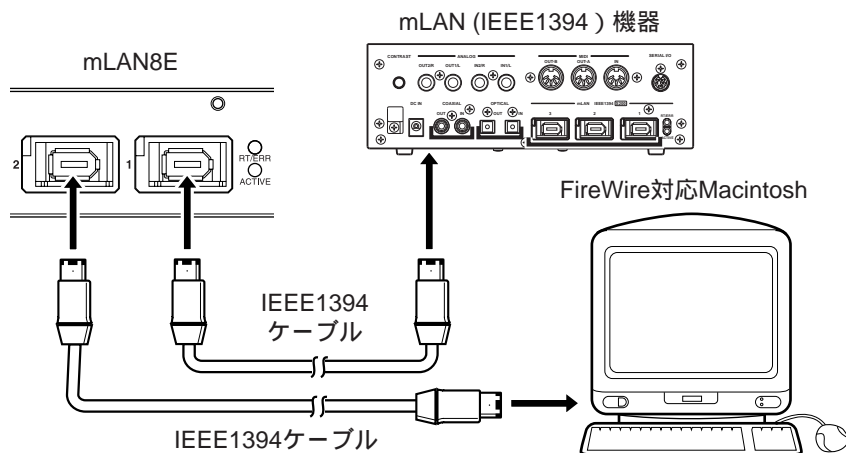
**(NOTE)** mLAN8E は、電源を切るとバスの中継としての機能もなくなりますので、電源のオン (青点灯) / オフ (消灯) に対応しています。

# 接続について

ここでは、mLAN8Eを使って、mLAN 機器とコンピューターを接続する方法を説明します。

## mLAN(IEEE1394) 機器との接続

mLAN(IEEE1394) 機器の mLAN(IEEE1394) 端子と mLAN8E の mLAN(IEEE1394) 端子を IEEE1394 標準ケーブル(6ピン)で接続します。このとき、mLAN(IEEE1394) 機器と mLAN8E を取り付けけた機器とも、電源を切っておく必要はありません。

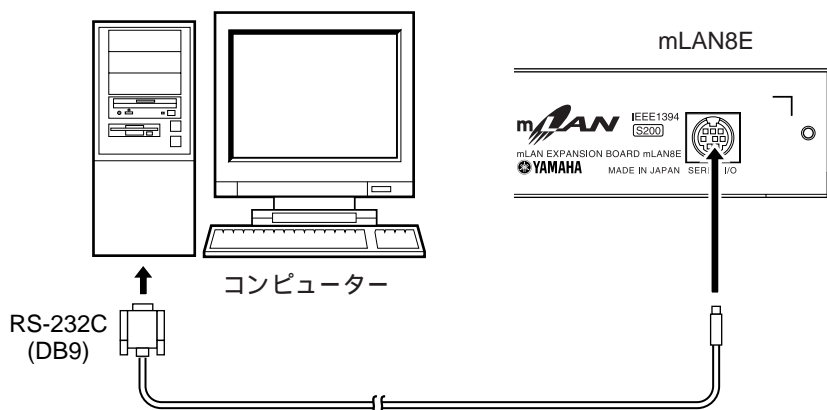


## Windows との接続 (シリアル接続)

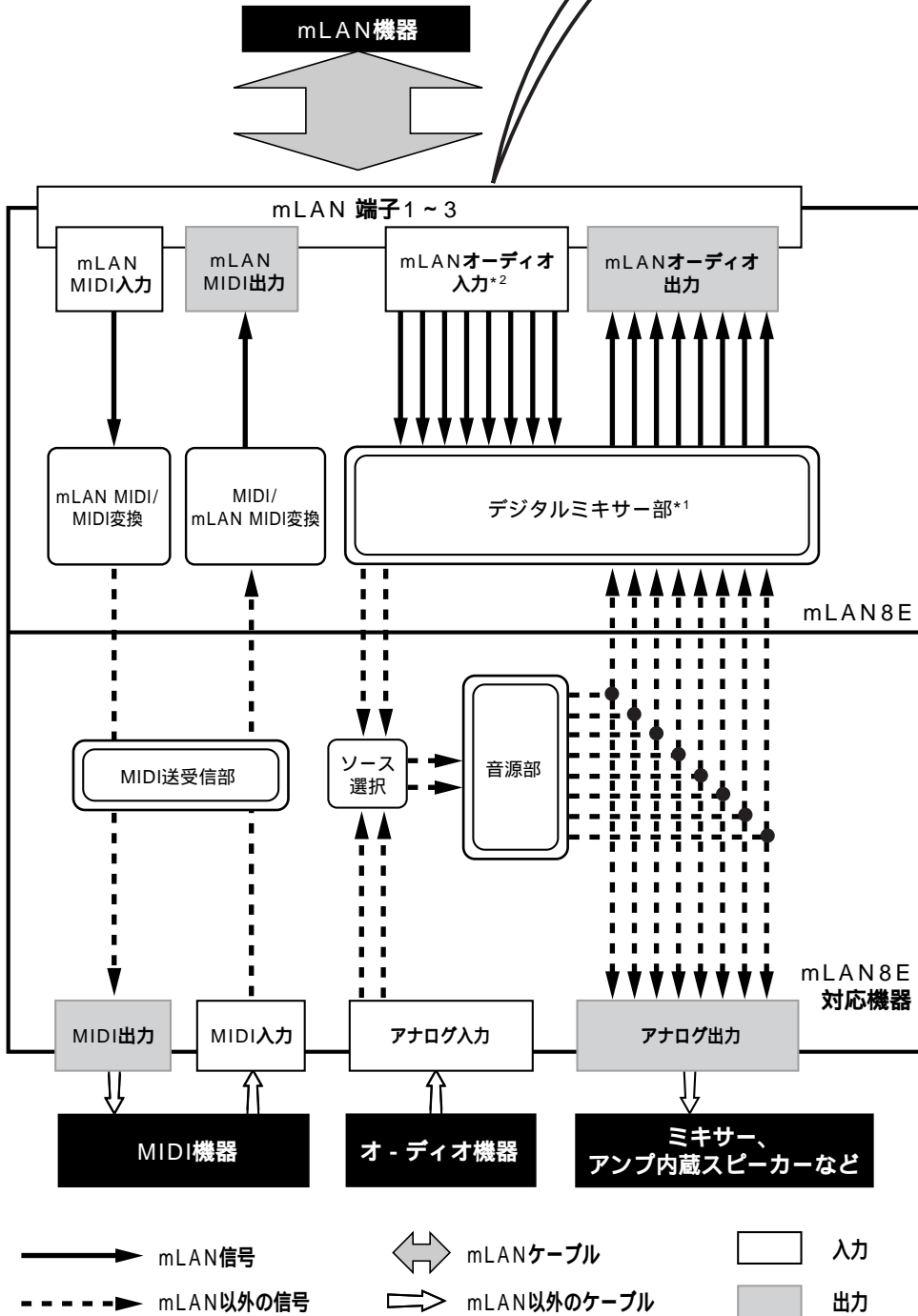
コンピューターの RS232C 端子と mLAN8E の SERIAL I/O 端子をシリアルケーブルで接続します。このとき、mLAN8E を取り付けけた機器とコンピューターの電源は必ず切っておいてください。

**(NOTE)** Windows で付属のソフトウェアを使用する際にシリアル接続を行いません。Macintosh を使用する場合は、mLAN8E の mLAN 端子と Macintosh の FireWire ポートを IEEE1394 ケーブルで接続してください (mLAN 機器との接続 参照)。

別売のシリアルケーブル YAMAHA CCJ-PC2 (市販品の場合は、D-SUB9P MINIDIN8P クロスケーブル) をご使用ください。



# mLAN8E の内部構成



## mLANプラグ (ミキサ - モ - ド時)

## mLAN出力プラグ

(mLAN Patchbay上の “From” に表示)

## mLANオーディオ

Mix L (ステレオミックスL)

Mix R (ステレオミックスR)

AUX1

AUX2

AUX3

AUX4

AUX5

AUX6

mLAN MIDI

MIDI OUT

## mLAN入力プラグ

(mLAN Patchbay上の “To” に表示)

## mLANオーディオ

CH9

CH10

CH11

CH12

CH13

CH14

CH15

CH16

mLAN MIDI

MIDI IN

**NOTE** ダイレクトモ - ド時は、mLAN8Eを装着している機器によって、表示されるプラグ数やプラグ名が異なります (P.20)。

**NOTE** CS6x/CS6R/S80のA/D INPUTに相当するmLAN入力プラグはありません。

左の図は、全体的な信号の流れをイメージで表したものです。

mLAN8Eには16チャンネルデジタルミキサー機能がありますので、mLAN上のオーディオ信号に本体のオーディオ信号をミックスすることもできます。

各種信号の入出力先の設定や、ミキサー機能は、付属のmLAN Toolsを使用することでパソコン上から手軽に設定することができます。

**NOTE** mLAN8Eのミキサ - 部には「ダイレクトモード」と「ミキサーモード」の2つのモードが用意されています。mLAN Mixerを使用しないときは、機器の入出力をそのまま行なうダイレクトモードになっています。mLAN Mixerを使用すると、ミキサーモードに切り替わります。電源を入れたときにはダイレクトモードで起動します。mLAN Mixerの動作中に本体の電源を入れ直したときは、mLAN Mixerを再起動してください。

\*1 デジタルミキサーの設定には、付属のアプリケーション mLAN Mixer が必要です。デジタルミキサー部の構成については、mLAN Mixer マニュアルのブロックダイアグラムをご参照ください。

\*2 mLAN オーディオ入力は、バス (システム) 上の任意の8チャンネルから選択できます。

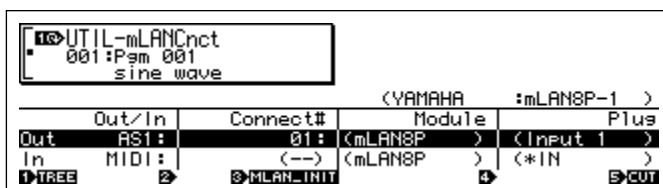
# mLAN8E を取り付けた機器での設定

## A5000/A4000 の場合

本体に mLAN8E を取り付けると、mLAN に関する設定ができるようになります。mLAN の設定は、ユーティリティモードで行ないます。

(NOTE) mLAN を使用する際は、あらかじめ、mLAN コンフィギュレーションのページで、MIDI Input を MIDI IN 以外に設定しておいてください。

### mLAN Cnct(mLAN コネクション)



Out/In	Connect#	Module	Plus
Out ASI :	01 :	<mLAN8P >	<Input 1 >
In MIDI :	(--)	<mLAN8P >	<*IN >

Additional text in the screenshot: UTIL-mLANCnct, 001:Pem 001, sine wave, <YAMAHA :mLAN8P-1 >, TREE, MLAN\_INIT, CUT.

(NOTE) ここでの設定はすべて mLAN8E に記憶されます。ディスクに保存することはできません。

### カーソル ①Out(アウトプット)

#### ノブ 1

[↶ 回す] カーソル移動 / ページ切替  
カーソルを移動したり、ページを切り替えたりします。

[▲ 押す] Tree View(ツリービュー)  
ツリービュー画面を表示します。

#### ノブ 2

[↶ 回す] Out(アウトプットプラグの選択)  
出力元となる mLAN8E の mLAN プラグを選択します。

設定できる値: AS(アサインブル)1 ~ 6、DIG-L、DIG-R、MIDI




## ノブ 3

[ 回す] Connect#( 接続先の mLAN 機器のコネクション番号を選択)

接続先の mLAN 機器のコネクション番号を選択します。すでに接続が設定されている番号では、モジュール名とプラグ名が括弧付き表示されます。接続数が 62 未満のときは、“New” を選択し、新たな接続先 (mLAN 入力プラグ) を設定することができます。

設定できる値: 1 ~ 62、New


[ 押す] mLAN\_INIT(mLAN イニシャライズ)

mLAN に関する設定を初期化します。確認ダイアログ付き実行。

すべての接続設定が “----” になります。Word Clock Mode は “Auto” になります。

(NOTE) Nickname の設定はイニシャライズしません。


## ノブ 4

[ 回す] Module( 接続先モジュールの選択)

mLANバス (システム) 上の mLAN 機器を選択します。設定が可能な mLAN 機器を選ぶと、最上段にベンダー名 / Nickname が表示されます。

(NOTE) すでに接続が設定されているコネクション番号では、設定を変更できません。

## ノブ 5

[ 回す] Plug( 接続先 mLAN プラグの選択)

接続先の mLAN 機器の mLAN 入力プラグを選択します。

(NOTE) 接続は、CONNECT( ノブ 5 を押すこと ) により実行されます。選択したあと、CONNECT を実行せずにページやカーソルを移動したり、Out や Connect# の設定を変更した場合、選択した値はクリアされます。

(NOTE) 選択可能なプラグがない場合は “----” 表示となります。

[ 押す] CONNECT( 接続)

選択した mLAN 機器の mLAN 入力プラグへの接続を行ないます。

コネクション番号が “New” のとき、接続可能なモジュール名 / プラグ名が選択された場合に有効となります。


[ 押す] CUT( 切断)


選択した接続設定を切断します。

すでに接続が設定されているモジュール名 / プラグ名が選択された場合に有効となります。

### カーソル②In(インプット)

#### ノブ 1

[ 回す] カーソル移動 / ページ切替  
カーソルを移動したり、ページを切り替えたりします。

[ 押す] Tree View( ツリービュー )  
ツリービュー画面を表示します。

#### ノブ 2

[ 回す] In( インプットプラグの選択 )


信号を入力する mLAN8E の mLAN プラグを選択します。すでに接続が設定されている場合は、モジュール名とプラグ名が括弧付き表示されます。

設定できる値: AD-L、AD-R、MIDI

#### ノブ 3


表示のみ

未接続の場合は、“New” が表示されます。

[ 押す] mLAN\_INIT(mLAN イニシャライズ)  
mLAN に関する設定を初期化します。確認ダイアログ付き実行。  
すべての接続設定が “----” になります。Word Clock Mode は “Auto” になります。


(NOTE) ニックネームの設定はイニシャライズしません。

#### ノブ 4

[ 回す] 接続先モジュールの選択

mLAN バス ( システム ) 上の mLAN 機器を選択します。設定が可能な mLAN 機器を選ぶと、最上段にベンダー名 / Nickname が表示されます。

#### ノブ 5

[ 回す] 接続先 mLAN プラグの選択

接続先の mLAN 機器の mLAN 出力プラグを選択します。

(NOTE) 接続は、CONNECT( ノブ 5 を押すこと ) により実行されます。選択したあと、CONNECT を実行せずにページやカーソルを移動したり、Out や Connect# の設定を変更した場合、選択した値はクリアされます。

(NOTE) 選択可能なプラグがない場合は “----” 表示となります。

[ 押す] CONNECT( 接続 )

選択した mLAN 機器の mLAN 出力プラグへの接続を行ないます。

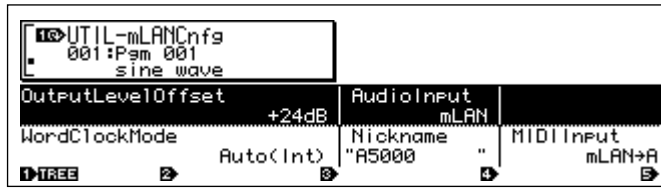
ノード番号が “New” のときに、接続可能なモジュール名 / プラグ名が選択された場合に有効となります。

[ 押す] CUT( 切断 )

選択した接続設定を切断します。

すでに接続が設定されているモジュール名 / プラグ名が選択された場合に有効となります。

## mLAN Cnfg(mLAN コンフィギュレーション)



**NOTE** OutputLevelOffset、WordClockMode、Nickname の設定は、mLAN8E に保存されます。ディスクに保存することはできません。

## カーソル①

## ノブ 1

[↶ 回す] カーソル移動 / ページ切替  
カーソルを移動したり、ページを切り替えたりします。

[▲ 押す] Tree View(ツリービュー)  
ツリービュー画面を表示します。

## ノブ 2

[↶ 回す] Output Level Offset(アウトプットレベルオフセット)  
すべての mLAN オーディオ出力の出力音量(オフセット値)を設定します。

設定できる値: +0dB ~ +24dB

## ノブ 4

[↶ 回す] Audio Input(オーディオインプット切替)  
オーディオインプットのソースを選択します。

設定できる値

ADIn: 本体の INPUT 端子からのアナログオーディオ 2ch の入力を使用します。

mLAN: mLAN オーディオ入力からの 2ch を使用します。本体の INPUT 端子からのオーディオ信号は入力しません。

## カーソル②

## ノブ 1

[↶ 回す] カーソル移動 / ページ切替  
カーソルを移動したり、ページを切り替えたりします。

[▲ 押す] Tree View(ツリービュー)  
ツリービュー画面を表示します。

## ノブ 3

[↶ 回す] WordClockMode(ワードクロックモード)  
ワードクロックに関する設定をします。

設定できる値

Auto: Audio 出力のワードクロックは自動的に 44.1kHz の外部機器と同期します。本体がマスターとして動作する場合とスレーブとして動作場合があります。

Group1Master(44.1kHz): 44.1kHz のマスター機器として動作します。

Word Clock Mode の選択前または SET の実行後は、現在の Word Clock Mode の状態を表示します。表示の意味は以下のとおりです。

- Auto(Int): Auto Mode で本体の内部クロックで動作
- Auto(Ext): Auto Mode で本体がスレーブとして動作
- ----(Int): Manual Mode で本体の内部クロックで動作
- ----(Ext): Manual Mode で本体がスレーブとして動作

[▲ 押す]SET(ワードクロック確定)

選択された Word Clock Mode の設定を確定します。

ノブ 4

Nickname(表示のみ)

本体の Nickname を表示します。

[▲ 押す]Rename(リネーム)

Nickname を設定します。

ノブ 5

[↺ 回す]MIDI Input(MIDI Input の切替)

**(NOTE)** MIDI 出力は、ここでの設定にかかわらず、MIDI OUT、mLAN MIDI 出力の両方に同じデータが出力されます。

**(NOTE)** MIDI THRU 端子には、ここでの設定にかかわらず、MIDI IN に入力されたデータが出力されます。

設定できる値

MIDI IN: mLAN を使用せず、MIDI IN 端子から入力された MIDI 信号で本体音源を鳴らします。

mLAN->A: mLAN MIDI 入力からの MIDI 信号を MIDI IN-A ポートに入力します。リアパネルの MIDI IN-A 端子からの MIDI 信号は入力しません (A5000 のみ)。

mLAN->B: mLAN MIDI 入力からの MIDI 信号を MIDI IN-B ポートに入力します。リアパネルの MIDI IN-B 端子からの MIDI 信号は入力しません (A5000 のみ)。

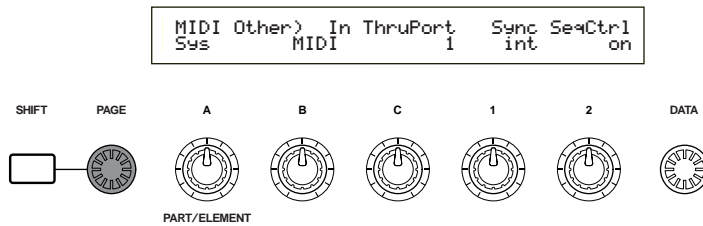
mLAN: mLAN MIDI 入力からの MIDI 信号を MIDI IN ポートに入力します。リアパネルの MIDI IN 端子からの MIDI 信号は入力しません (A4000 のみ)。

## CS6x/CS6R/S80 の場合

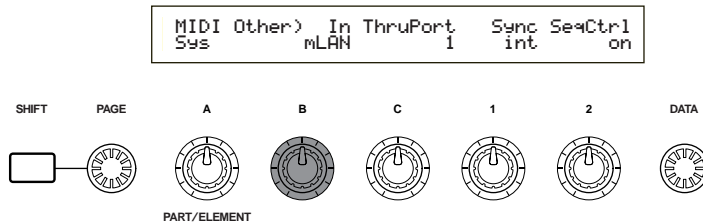
本体に mLAN8E を取り付けると、mLAN に関する設定ができるようになります。mLAN に関する設定は、おもにユーティリティモードで行ないます。

### MIDI の設定

- ① [UTILITY]キーを押してユーティリティモードに入ります。
- ② PAGE ノブを回して、MIDI Other のページを表示させます。



- ③ ノブBを使って、In を mLAN に設定します。



### MIDI Other(MIDI アザー)

mLAN8E を取り付けた CS6x/CS6R/S80 は、以下のように機能が拡張されます。

MIDI Other)	In ThruPort	Sync SeqCtrl
Sys	mLAN	1 int on

#### In(MIDI Input)

MIDI 情報の入力口として、MIDI 端子を使用するか、mLAN 端子を使用するかを選択します。mLAN に設定すると、HOST SELECT スイッチは無効となり、TO HOST 端子や MIDI IN 端子につないだ機器からの MIDI 信号は入力しません。

設定できる値 : MIDI、mLAN

(NOTE) ここでの設定にかかわらず、MIDI OUT 信号は、MIDI OUT 端子と mLAN 端子の両方から出力されます。

(NOTE) mLAN に設定した場合、TO HOST から MIDI OUT 信号は出力されません。

(NOTE) mLAN に設定した場合、ThruPort の設定は無効となります。

#### Sync(シンク)(上記 MIDI Input = mLAN のとき)

外部機器と同期演奏を行なう場合に、本体が内部クロックで動作するか、mLAN 端子から入ってくる MIDI クロックで動作するかを選択します。int(インターナル)に設定すると、本体は内部クロックで動作します。本体を単独で使用する場合や、MIDI クロックによる同期演奏のマスターとして使用する場合はこれを選択します。また、MIDI に設定すると、本体は mLAN 端子から受信した MIDI クロックで動作するようになります。本体を同期演奏のスレーブとして使用する場合はこれを選択します。

設定できる値 : MIDI、int(インターナル)

#### SeqCtrl(シーケンサーコントロール)(上記 MIDI Input = mLAN のとき)

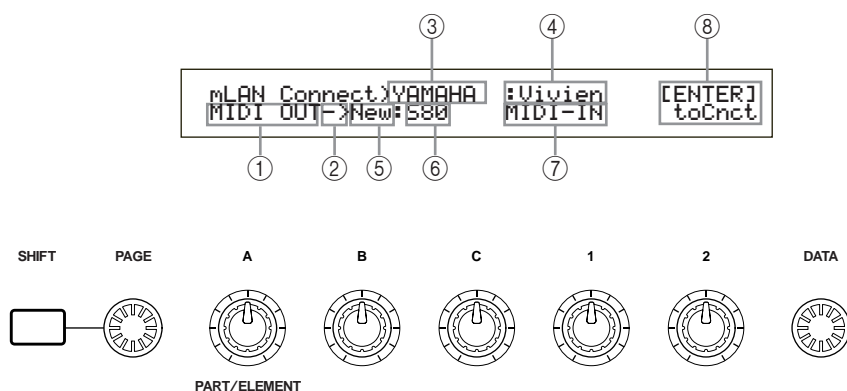
スタート、ストップ、コンティニュースタートの mLAN MIDI 信号を送受信するかどうかを設定します。また、MIDI クロックを mLAN MIDI 出力から送信するためのスイッチにもなっています。

設定できる値 : off(送受信しない)、on(送受信する)

## mLAN コネクション、ワードロック、Nickname の設定

**(NOTE)** 各ページへの入り方は、「MIDI の設定」と同様です。ユ-ティリティモード時に PAGE ノブを回して、目的のページを表示させます (P.13)

### mLAN Connect(mLAN コネクション)



#### ① mLAN8E の mLAN プラグ

**(NOTE)** mLAN8E が装着されている機器によってプラグ数、プラグ名は異なります。

- ② 入力の設定 (<-) が出力の設定 (->) を示します。上の例では、mLAN8E の MIDI OUT プラグを外部の S80 (Nickname=Vivien) に接続しようとしています。
- ③ 接続先のベンダー ( 供給者 ) 名
- ④ 接続先のニックネーム
- ⑤ 接続先のコネクション番号
- ⑥ 接続先のモジュール名
- ⑦ 接続先の mLAN プラグ名
- ⑧ 接続 / 切断設定  
[ENTER]toCnct...[ENTER] キーで接続  
[ENTER]toCut...[ENTER] キーで切断

## mLAN8E を取り付けた機器での設定

---

### mLAN8E の出力先の設定

(1) ノブ A を動かして、出力元となる mLAN8E の mLAN プラグを選択します。

(NOTE) ノブ B を動かして、接続先の mLAN 機器の Node 番号を最大 62 まで確認することができます。

以前設定した接続先が見つからない場合は、“\*\*\*\*\*”と表示されます。

(NOTE) 接続が設定されてない場合は KnobB の上に “New”、Knob2 の上に “[ENTER] ToCnct” と表示されます。

(NOTE) すでに接続が設定されている場合は現在の接続先が表示されます。また、ノブ 2 の上に “[ENTER] To Cut” が表示されます。このとき [ENTER] を押すと、その接続が切断されます。

(2) ノブ C を動かして、mLAN バス ( システム ) 上の mLAN 機器を選択します。上段にはベンダー名、下段にモジュール名が表示されます。

(3) ノブ 1 を動かして、接続先の mLAN 機器の mLAN 入力プラグを選択し、[ENTER] を押します。接続が実行され、“New” の表示が番号に変わります。

(NOTE) 現在の接続先を変更するには、いったん接続を切断し、あらためて接続の設定をしてください。

(NOTE) 接続先の名前 ( ベンダー名、モジュール名、mLANP プラグ名 ) が、それぞれ 8 文字を超える場合、8 文字までを表示します。



## mLAN8E の入力先の設定

(NOTE) mLAN8E の一つの mLAN 入力プラグに対して接続先は常に一つです。

(1) ノブ A を動かして、信号を入力する mLAN8E の mLAN プラグを選択します。接続先のモジュール / プラグ名に “-----” が表示されます。

(NOTE) すでに接続が設定されている場合は、現在の接続先が表示されます。また、ノブ 2 の上に “[ENTER] To Cut” が表示されます。この場合は [ENTER] を押して、その接続を切断してください。

(2) ノブ C を動かして、mLAN バス (システム) 上の mLAN 機器を選択します。上段にはベンダー名、下段にモジュール名が表示されます。

(3) ノブ 1 を動かして、接続先の mLAN 機器の mLAN 入力プラグを選択し、[ENTER] を押すと、接続が実行されます。

(NOTE) 現在の接続先を変更するには、いったん接続を切断し、あらためて接続の設定をしてください。

(NOTE) 接続先の名前 (ベンダー名、モジュール名、mLAN プラグ名) が、それぞれ 8 文字を超える場合、8 文字までを表示します。

(NOTE) mLAN コネクションの設定は mLAN8E に記憶されます。メモリーカードに保存することはできません。

## mLAN WordClock

ワードクロックの設定を行いません。

```
mLAN WordClock)   Mode           [ENTER]
Sys               Group1Master(44.1kHz) to Set
```

## Mode

接続されている mLAN Audio ネットワーク上で、Word Clock Master(Group1Master) となるか、スレーブ / マスターが自動的に選択されるようにする (auto) を設定します。Mode を選択し、[ENTER] を押すと、コンファーム画面が現れます。設定を実行する場合は [YES] を、キャンセルする場合は [NO] を押します。設定が確定すると Mode の右側に “(int)” または “(ext=\*\*\*\*\*)” の表示が現れます。“(int)” は、mLAN8E を装着している本体がワードクロックマスターであること、“(ext=\*\*\*\*\*)” は \*\*\*\*\* という外部モジュールのスレーブになっていることを示します。

設定できる値 : auto(44.1kHz)、Group1Master(44.1kHz)

(NOTE) ここでの設定は mLAN8E に記憶されます。メモリーカードに保存することはできません。

## mLAN8E を取り付けた機器での設定

---

### mLAN Initialize

CS6x/CS6R/S80 に装着されている mLAN8E の mLAN コネクションとワードクロックの設定をイニシャライズ (初期化) します。[ENTER] を押すと、コンファーム画面が現れます。イニシャライズを実行する場合は [YES] を、キャンセルする場合は [NO] を押します。

```
mLAN Initialize>                               [ENTER]
Sys                                               to Init
```

(NOTE) Nickname の設定はイニシャライズしません。

### mLAN Nickname

mLAN8E を装着した CS6x/CS6R/S80 の Nickname を設定します。入力のしかたは、CS6x/CS6R/S80 のボイスネームの設定方法と同様です。

入力後、[ENTER] を押すと、変更した内容に設定されます。

```
mLAN Nickname>      a-Z  0-?  Cursor
Sys                [Vivien ]
```

## mLAN に関するその他の設定

### ボイスモード

OSC Pan( オシレーターパン ) の Output( アウトプット ) で ind3 ~ ind6 が指定できるようになります ( ドラムボイスのみ )。

### パフォーマンスモード

LYR Out( レイヤーアウト ) の Output( アウトプット ) で ind3 ~ ind6 が指定できるようになります。

### フレーズクリップモード (CS6x/CS6R)

OSC Pan( オシレーターパン ) の Output( アウトプット ) で ind3 ~ ind6 が指定できるようになります。

# LED メッセージ

## LED メッセージ

	機能	状態
mLAN1 ~ 3	ケーブルを抜いたとき、接続先以外で音が途切れるかどうかを示す	赤 ... 音が途切れる 緑 ... 音が途切れない (リーフノード)
RT/ERR	ルート / エラーの表示	赤 / 橙 ... エラー発生、緑 ... 本体がルート
ACTIVE	中継機能の状態を表示	青 ... 中継機能が働いている

## エラーメッセージ

				原因	対処
3	2	1	RT		
		赤	橙	機器の接続 (トポロジー) がループを形成している	機器の接続でループを形成している部分がないか調べる
	赤		橙	バス上に Cycle Start Packet が送信されていない (Audio/MIDI のデータが送信できない)	正常に動作していない機器を取り除く
	赤	赤	橙	正常に動作していない機器がバス上に存在する	正常に動作していない機器を取り除く
		緑	橙	ホップ数が 17 以上になっている	ホップ数を確認する
	緑		橙	バスに供給されている電源が不足している	バスにパワープロバイダーを追加するか、パワーコンシューマーを取り除く
		赤	赤	MIDI IN の転送速度が不適切	MIDI の転送速度の設定を確認する
	赤		赤	MIDI の転送レート以上のレートで送信されている	送信側の機器が正常に動作しているかを確認する
			赤	何らかの原因で音が途切れた。またはワードクロックが同期していない	本体と受信ソースのワードクロックの設定を確認する

# 仕様

mLAN	IEEE1394 ハイパフォーマンスシリアルバス データレート S200、アイソクロナスリソースマネージャー、バスマネージャー、コネクションマネージャー IEC61883-6 Audio and Music Protocol 準拠 デジタルオーディオ 8in/8out、MIDI 1in/1out
サンプリングレート	44.1kHz
機能	ダイレクトモード Input : 2 (最大) Output : 8 (最大) ミキサーモード Input : 16 (最大) Link、Gain、ATT、Phase、EQ (4Band) *、Dynamics*、AUX Send (x6) Pre/Post (x6) Channel on/off、Meter、Pan、Fader Output : 8 (最大) Level、Balance、AUX Link、AUX Master (x6) * 最大 8ch
接続端子	mLAN IEEE1394 (1、2、3) SERIAL I/O
mLAN プラグ	ダイレクトモード A5000/A4000 AS1 ~ 6 OUT、DG-L OUT、DG-R OUT、AD-L IN、AD-R IN、MIDI OUT、MIDI IN CS6x/CS6R/S80 IND1 ~ 6 OUT、L OUT、R OUT、MIDI OUT、MIDI IN ミキサーモード Mix L、Mix R、AUX1 ~ 6、CH9 ~ 16、MIDI OUT、MIDI IN
	(NOTE) 詳しくは、7ページの「mLAN プラグ (ミキサ - モ - ド時)」をご参照ください。
ディスプレイ	リアパネル : mLAN 1/2/3 LED、ACTIVE LED、RT/ERR LED
消費電力	4 W

仕様および外観は、改良のため予告なく変更する場合があります。

# MEMO

# ユーザーサポートサービスのご案内

ヤマハデジタル商品は、常に新技術 / 高機能を搭載し技術革新を進める一方、お使いになる方々の負担とわずらわしさを軽減できるような商品づくりを進めております。また取扱説明書の記載内容も、よりわかりやすく使いやすいものにするため、研究 / 改善いたしております。

しかし、一部高機能デジタル商品では、取扱説明書だけでは説明しきれないほどのいろいろな知識や経験を必要としてしまうものがあります。

実際の操作に関して、基本項目は取扱説明書に解説いたしておりますが、「記載内容が理解できない」、「手順通りに動作しない」、「記載が見つからない」といったさまざまな問題が起こる場合があります。

そのようなお客様への一助となるよう、弊社ではデジタルインフォメーションセンターを開設いたしております。

お気軽にご利用いただきますようご案内申し上げます。

お問い合わせの際には、「製品名」、「製造番号」、「ご住所」、「お名前」、「電話番号」をお知らせください。

## ヤマハデジタルインフォメーションセンター

TEL : 053-460-1666

受付日 : 月曜日～金曜日（祝日および当社の休業日を除く）

受付時間 : 10:00～12:00 / 13:00～17:00

## デジタル楽器に関するお問い合わせ窓口

### PA・DMI 事業部

DE 営業部 〒430-8650 浜松市中沢町 10-1 TEL (053) 460-2432

### EM 営業統括部

北海道営業所 〒064-8543 札幌市中央区南 10 条西 1 丁目 1-50  
ヤマハセンター内 TEL (011) 512-6113

仙台営業所 〒980-0804 仙台市青葉区大町 2-2-10 TEL (022) 222-6147

営業推進課 〒108-8568 東京都港区高輪 2-17-11 TEL (03) 5488-5476

名古屋営業所 〒460-8588 名古屋市中区錦 1-18-28 TEL (052) 201-5199

大阪事業所 〒542-0081 大阪市中央区南船場 3-12-9  
心斎橋プラザビル東館 TEL (06) 6252-5231

九州営業所 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前 2-11-4 TEL (092) 472-2130

ヤマハデジタル楽器・DTM 製品ホームページ <http://www.yamaha.co.jp/product/decbox/>

ヤマハマニュアルライブラリー <http://www2.yamaha.co.jp/manual/japan/>

ニフティサーブ 「GO FMIDIVA」コマンドで FMIDIVA に入ると、ヤマハデジタル楽器および DTM 製品のフォーラムがございます。

電子会議 #16 ヤマハ Synth & CBX 情報ボード  
#17 ヤマハ Synth & CBX ユーザーズカフェ  
#18 ヤマハ Synth & CBX 相談室  
データライブラリー #8 ヤマハ / デジタル CBX

所在地・電話番号などは変更されることがあります。

# 保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。

## 保証書

本機には保証書がついています。

保証書は販売店がお渡しますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

## 保証期間

お買い上げ日から 1 年間です。

## 保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

## 保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

下記の部品については、使用時間により劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

### 消耗部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、フロッピーディスクドライブなど

## 補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後 8 年です。

## 持込み修理のお願い

まず別紙の「故障かな? と思ったら」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へ本機をご持参ください。

## 製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

## ヤマハ電気音響製品サービス拠点 (修理受付) および修理品お持ち込み窓口

北海道サービスセンター	〒064-8543	札幌市中央区南 10 条西 1 丁目 1-50 ヤマハセンター内	TEL (011) 512-6108
仙台サービスステーション	〒984-0015	仙台市若林区卸町 5-7 仙台卸商共同配送センター 3F	TEL (022) 236-0249
首都圏サービスセンター	〒211-0025	川崎市中原区木月 1184	TEL (044) 434-3100
浜松サービスステーション	〒435-0016	浜松市和田町 200 ヤマハ (株) 和田工場内	TEL (053) 465-6711
名古屋サービスセンター	〒454-0058	名古屋市中川区玉川町 2-1-2 ヤマハ (株) 名古屋流通センター 3F	TEL (052) 652-2230
大阪サービスセンター	〒565-0803	吹田市新芦屋下 1-16 ヤマハ (株) 千里丘センター内	TEL (06) 6877-5262
四国サービスステーション	〒760-0029	高松市丸亀町 8-7 (株)ヤマハミュージック神戸 高松店内	TEL (087) 822-3045
広島サービスステーション	〒731-0113	広島市安佐南区西原 6-14-14	TEL (082) 874-3787
九州サービスセンター	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前 2-11-4	TEL (092) 472-2134
[本社] CSセンター	〒435-0016	浜松市和田町 200 ヤマハ (株) 和田工場内	TEL (053) 465-1158

所在地・電話番号などは変更されることがあります。

# ヤマハ株式会社



この取扱説明書は  
エコバルブ( ECF:無塩素系漂白バルブ )  
を使用しています。



この取扱説明書は  
エコマーク認定の  
再生紙を使用しています。



この取扱説明書は  
大豆油インクで印刷しています。